

## 第11回 武雄市まち・ひと・しごと創生推進懇話会会議録

日時：令和5年7月21日（金）

10：00～11：30

場所：6階全員協議会室

### <出席委員>

江口（武雄市観光協会）、五十嵐（佐賀大学）、鶴田（武雄金融協会）

田栗（連合佐賀南部地域協議会）、小杉（ケーブルワン）、庭木（女性ネットワーク）

土井（司法書士）、浦郷（武雄公共職業安定所）、亀崎（佐賀県さが創生推進課）、北川副市長

※欠席：松尾（武雄青年会議所）、梶川（武雄商工会議所）、松田（武雄市商工会）、中島（佐賀県農業協同組合）、安藤（区長会）、松永（市民団体）、江越（眉山の森保全の会）

### <事務局>

企画政策課（庭木部長、小柳課長、野田、西村、田中）

#### 1 開会【小柳課長】

ご多用の中、ご出席いただきありがとうございます。

只今から第11回武雄市まち・ひと・しごと創生推進懇話会を開催致します。

#### 2 会長あいさつ【北川副市長】

お忙しい中、お集まりいただき感謝申し上げます。

先日の大雨で県内でも唐津市や佐賀市で大きな災害は発生しており、令和元年と令和3年に大きな被害を受けた武雄市も気を抜けない状況である。「第2期武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略」については、令和2年度から5ヶ年の戦略を策定しており、今回の懇話会では令和4年度分を中心に報告をする。施策の実施状況について、評価指標に基づき評価検証を行うなどPDCAサイクルを実施することとしている。これまでの取組の成果や課題を今一度整理し、来年度以降の更なる展開に向けた検討を進めていきたい。第2期の計画期間の間に災害の発生や西九州新幹線開業があり、新型コロナウイルスの状況も続いている。このような変化を考慮して検討する必要があるため、忌憚のない意見をいただきたい。

#### 3 議題

##### （1）武雄市総合戦略のKPI進捗報告及び検証について

事務局より概要説明。

○質問 ●提言・意見

(小杉委員)

○男女共同参画事業において、啓発イベント以外に何か実施していることはあるか。

A 市ホームページや市報を通じて年5回の啓発をしている。また、市役所内でも職員向けの研修を実施している。

○成人対象講座の参加者が増えているのは地域包括連携が上手くいっているということか。

A 拠点が調ってきたことにより、いろいろな人の支援の輪が広がっているということだと認識している。

○ほんわカーの運行について、利用者の声を聴く機会はあるか。

A 利用者からの意見は重要であり、区長会や民生委員等を通じて、意見を聴取している。また、東川登の実証実験をした際には地域包括連携会議で様々な立場の方から意見を聴取した。

(五十嵐委員)

○総合戦略にはIT関連企業など高校生や大学生の地元就職やUIJターンを誘引するような雇用の質の高い企業誘致すると記載されているが、R4年度に誘致できた3社はどのような業種か？

A 株式会社平島は金属メーカー、エスプールは自治体業務の受託事業、先端情報技術企画はIT関連

○トレーニングファームの研修生に対する就労後の支援体制はどうなっているか。市独自の支援はあるか。

A トレーニングファームは新規就農者ということになるため、国や県による施設設置や機械購入などハード面の支援があり、市としても県や国の補助に上乗せする形で支援している。

○定住世帯数における子育て世帯の転入数はいくつか。

A 令和4年度の転入世帯9世帯の内、中学生以下が含まれる世帯は4世帯である。

●人口ビジョンにおいて子育て支援を充実させるという目標があるので、子育て世帯の動向を把握しておくことは重要なことであると思う。

○自主防災組織はいくつあるか。自治会単位か。

A 区単位で組織されており、武雄市内117区全てに自治防災組織が設置されている。

●高齢化等により、自治体単位での自主防災組織には限界がある。今後は小学校区レベルでの組織体制を検討する必要がある。

(亀崎)

○創業件数が横ばいになっている要因は何だと考えられるか。

コロナの影響があり、件数が増加しなかったと考えている。創業した業種については、特定の業種に偏るのではなく、多種多様な業種となっている。

●子どもの地域行事参加割合は他市町と比べても高い割合であり、素晴らしいと思う。子どもたちが地域に愛着を持つことは重要なこと。引き続き高い数値を維持できるよう頑張ってもらいたい。

●公共交通の利用促進に関して、県も公共交通会議へ出席しているので、今後も協力しながら頑張っていきたい。

**(小杉委員)**

○たけぼうの登録者はどのくらいか。

A 令和5年3月31時点で12,311ダウンロードほどの登録がある。1年間で3000ダウンロードほど増えている。

○戸別受信機は災害以外でも利用できているのか。

A 戸別受信機は災害以外にも利用可能であり、防災・減災課で周知をしている。使い方がわからない場合には出前講座も行っている。

**(田栗委員)**

○新しい体育館ではスポーツのサークルや安価に利用できるジム等があるのか。なければ今後作る予定はあるか。

A スポーツサークルは公民館単位や新しい体育館単位で様々な団体が利用している状況。施設に関して、新しく新設する予定はない。

**(鶴田委員)**

○住宅の着工件数などのデータはあるか。

A 詳しいデータはないが、新規着工数は年々増えている。木造家屋の住宅用地は年間1万㎡増えている状況。

**(五十嵐委員)**

●新規住宅の立地動向については転入者が多いのか、市内での核家族化に伴うものか、どの地域に増えているのかなど、丁寧に検証すべき。

**(江口委員)**

○今後、外国人観光客が増えると思うが、市内の外国人観光客受け入れのキャパシティは足りているのか。

A キャパシティは足りるように計画を立てている。

●外国人観光客の受け入れに向けて、おもてなしとかソフト面は民間と市がお互いに高めなければならないと思う。

●市役所旧跡地、高架線下の利用が十分に生かされていない。今後どのように利用していくか早めに示した方がいい。

A 市役所跡地については今年度中に方針を示すという方向で進めている。

●歴史資料館の活用について、来訪者のために企画展の開催が必要だと思う。企画展の実施について、経費が嵩むという課題があるが、来訪者の増加のためには必要なことだと思う。

**(会長)**

●新幹線の開業に伴い、外国人観光客の増加が見込まれる。外国人はキャッシュレスが浸透している中で市内の飲食店や宿泊施設がどれくらい対応できているか懸念している。キャッシュレスの推

進に向けて目標値を立てて進めていくことも必要ではないかと思う。

**(江口委員)**

●キャッシュレスのメリットが少なく、面倒だと思える事業者が多い。懇切丁寧に辛抱強く説明を行っていくことが必要。

**(鶴田委員)**

●今後のインバウンドが増えてくると思うが、キャッシュレスの導入数等をデータとして確立してほしい。肌感覚では都市部と比べたら抵抗感があるとおもう。

**(五十嵐委員)**

●福岡に来たインバウンド客が大分へ流れることが多いが、佐賀や長崎には来ていない。大分は温泉地としての知名度もあると思うが、西九州に呼び込めていないのは惜しい。福岡に来た人をどうやって西九州に呼び込むか考えた方がいい。

**(土井委員)**

○空き店舗活用について、具体的に事例があるか。武雄温泉街の修繕などどうなっているか。

A 温泉街の空き店舗に対しての支援メニューがあり、推進しているが、そこまでの効果が出ていない。新たにトライアルで創業できる支援を考えている。

**(江口委員)**

○空き店舗の支援策があるにも関わらず、大家に支援策を活用しようという意識がないのが空き店舗の利用が進まない要因の一つだと思う。大家や持ち主への周知も必要ではないか。

**(五十嵐委員)**

●空き店舗や空き家の活用等のために、地域おこし協力隊などの外部人材の力も必要。地域おこし協力隊をもっと積極的に採用すること等が必要だと考える。

A スポーツ課で2名、ハブ都市・新幹線課で1名採用している。

**(江口委員)**

●子ども家庭の新設はいいことと捉えている。案外こうゆうことが目標の達成につながるのではないかな。

#### 4 その他

##### 武雄市の取組について

###### (1) 新幹線開業の影響について

・ハブ都市・新幹線課より説明

## (2) 治水対策について

・治水対策課より概要説明

### (五十嵐委員)

●新幹線開業後の転入者 131 人について、どこまでが新幹線の影響なのか、どこからの転入、どういう属性の方が転入しているか等、丁寧な分析が必要である。

### (田栗委員)

●駅に降り立ってまず何があるのかと思ったときに、店はあるが少ない。また来てもらえるような何かが必要。

### (小杉委員)

●タクシーを呼んでもタクシーが捕まらないという話を聞く。タクシー運転手に話を聞くと、車両はあるが、運転手がないという状況。旅行客はタクシーの利用が多いと思われるので、そこをどう改善していくか。

●周遊バスのルート見直しはいい取り組みだと思う。周遊バスの効果的な活用を増やすべきだと思う。

●駅に降り立った時に第一印象で武雄に来たと思えるようなものがあつた方がいい。例えば陶器や武雄温泉に関するものなど。

### (江口委員)

●コロナ後の観光消費などは冷静に見なければならない。西九州新幹線開業の影響なのか、コロナ収束の影響なのか、今の数値がどれほど持続していくのか。

●南口駅前広場をただイベント会場として使用してもらうのではなく、武雄市としてどのようなものを表現していくかを考えるべき。

A 7月29日と30日に南口駅前広場において、駅スポというイベントを実施する。そこでは平戸や松浦など西九州地域からの出店を予定している。また、11月の物産祭りにおいても、名会場は新体育館だが、駅前広場においても西九州地域の良さを生かせるようなイベントを行いたいと考えている。

### (鶴田委員)

○9月23日で開業1周年を迎えるが、何かイベント等を行う予定はあるか。

A JR九州より、9月23日と24日に西九州新幹線沿線の広場等で賑わいを作るよう依頼があつた。JR九州と協力してイベントを実施したい。

### (五十嵐委員)

○武雄市治水対策計画を策定するのであれば、上位計画や関連計画と整合性をとる必要がある。そ

こはどうお考えか。

A 武雄市にはマスタープランは策定しておらず、まち・ひと・しごと創生総合戦略が最上位の計画である。総合戦略の来年度の見直しにおいて検討していく。

○社会情勢に応じて総合戦略の変更や追加が必要だと思うが、DX計画やGX計画はいつ総合戦略に含める予定か。

A 来年度の見直しで検討していきたい。

●大学設置もあるので、韓国をターゲットにしたインバウンド観光戦略などが必要ではないか。韓国から福岡へ来る韓国人は多いが、佐賀には来ていない状況。福岡に来た韓国人を呼び込めれば大きな利益になると思う。

## 5 閉会

長時間に渡り、貴重なご意見等ありがとうございました。

いただいた意見は全庁的に共有しながら、今後の取組に生かしていきます。

以上をもちまして、懇話会を終了致します。本日は誠にありがとうございました。

<武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 KPI進捗状況調査>

武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定値						
政策	施策	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値	データ所管課	具体的事業
基本目標 ① 仕事を創出し、所得を上げる	総論	新規求人数	8,237人 (H30年度)	9,000人 (R6年度)	商工観光課	
	具体的施策(1) 企業誘致の積極的な推進	企業誘致数	2社 (H30年度)	5社 (R2年度～R6年度)	企業立地課	・企業、学校誘致事業 ・新工業団地整備事業 ・企業誘致優遇制度 ・企業誘致促進特区事業
		立地協定締結企業の正社員雇用者数	11人 (R元年度)	50人 (R2年度～R6年度)	企業立地課	
	具体的施策(2) 中小企業支援、企業・創業等支援	創業支援相談件数	52件 (H30年度)	50件 (R6年度)	商工観光課	・特産品開発、販路開拓事業 ・創業支援事業 ・中小企業融資事業 ・商工業振興事業 ・商店街等空き店舗活用事業 ・まちなみ創造事業
		創業件数	4件 (H30年度)	15件 (R6年度)	商工観光課	・伝統産業支援事業 ・域外消費促進事業 ・地域雇用創造事業
	具体的施策(3) 就労支援、人材の確保・育成	市の協議会・審議会に占める女性の割合	33.3% (H30年度)	40% (R6年度)	男女参画課	・男女共同参画啓発事業
		就職件数	1,991件 (H30年度)	2,100件 (R6年度)	商工観光課	・就労相談会開催事業 ・就労マッチング事業 ・地域雇用創造事業
	具体的施策(4) 魅力ある農林業の振興	農業算出額	517千円 (H29年度)	540千円 (R6年度)	農林課	・新規農業者支援事業 ・6次産業推進事業 ・集落営農組織の経営発展事業
		有害鳥獣の農作物被害額	139万円 (H30年度)	120万円 (R5年度)	農林課	・特用林産物生産物拡大事業 ・園芸振興事業 ・畜産振興事業
		青年等就農計画数	5人 (R元年度)	15人 (R2～R6年度)	農林課	・有害鳥獣対策事業 ・お茶生産振興事業 ・新規作物産地化推進事業 ・地産地消推進事業 ・森林保全事業 ・特産品のブランド化事業
認定農業者数		118人 (R元年度)	120人 (R6年度)	農林課	・生産体制確立支援事業 ・里山資本再発見、創発事業 ・里山再生支援事業	

実績値						
R2年度	R3年度	R4年度	事業概要及び効果	追加事業	KPI達成に向けての課題	特記事項
7,751人 (R元年度)	6,853人 (R2年度)	7,911人 (R3年度)				HW年報 (毎年6,7月頃公表)
0社 (R2年度)	0社 (R3年度)	3社 (R4年度)	・新工業団地整備事業 ・企業誘致事業 ・企業誘致優遇制度	・オフィス立地支援制度の創設【R2】	新工業団地整備事業において、法面崩壊により造成完了・分譲開始時期が遅れることが予想される。また、追加工事による分譲単価の上昇が予想される。	・できるだけ早い時期に新工業団地の分譲開始を目指す。 ・西九州のハブ都市としてオフィス誘致について注力する。
0人 (R2年度)	10人 (R3年度)	22人 (R4年度)				
66件 (R2年度)	34件 (R3年度)	86件 (R4年度)	・創業支援事業 ・商店街等空き店舗活用事業による事業所の新規創業による地域活性化及び雇用の創出		創業塾など創業希望者への支援についての周知	
10件 (R2年度)	5件 (R3年度)	6件 (R4年度)	・創業支援事業 ・商店街等空き店舗活用事業による事業所の新規創業による地域活性化及び雇用の創出		創業相談窓口訪問者や創業塾利用者に対するフォローアップ	
34.3 (R2年度)	35.7 (R3年度)	35.4 (R4年度)	啓発イベント実施、広報、HP等での啓発で男女共同参画意識の醸成		啓発活動の継続	34.4(R元年度)
1,857人 (R元年度)	1,629人 (R2年度)	1,684人 (R3年度)	武雄市地域雇用創造協議会による官民一体となった ・実践型地域雇用創造事業 ・自主事業 による市内雇用創出及びマッチング		事業への参加求職者や事業者を増やしきめ細かいマッチングを実施	ハローワーク年報により計上 例年6月頃計上
519千万円 (令和元年)	574千万円 (令和2年)	544千万円 (令和3年)	・県補助金、国庫補助金等を活用し、園芸作物や米麦大豆、畜産等に対する支援を行う。 (R3補助額(国県市計): 280,463千円)			
189万円 (R元年度)	529万円 (R2年度)	385万円 (R3年度)	・捕獲・防除等の対策を行うことにより、被害額を低減し、農家の生産意欲の維持を図る。 ・イノシシ捕獲頭数 2,433頭(R3年度)			
10人 (R2年度)	15人 (R3年度)	17組 (R4年度)	・新規就農者支援事業 ・若手農業者の確保・育成を図ること で、地域や生産部会の担い手確保につながった。			R5 4組 R6 3組 の増加は確定している ので、実績計24組以上が見込まれる。
117人 (R2年度)	111人 (R3年度)	109人 (R4年度)	・認定農業者支援事業(研修等) ・高齢化等の理由により減少傾向にあるため、後継者の確保に努めたい。			現在申請2名あり。 R5までに111人の見込み。

武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定値						
政策	施策	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値	データ所管課	具体的事業
基本目標 ② 最高の 子育て・教育環境を つくる	総論	若者人口率	13.7% (R元年度)	13.7% (R6年度)	企画政策課	
	具体的施策(1) 子育て・家庭支援	産後うつ病のリスクの高い母親の割合 (EPDS9点以上)	9.7% (H30年度)	0% (R6年度)	こども家庭課	<ul style="list-style-type: none"> <li>婚活支援事業</li> <li>不妊治療費助成事業</li> <li>妊婦健診事業</li> <li>乳幼児健診事業</li> <li>子育て世代包括支援センター事業</li> </ul>
		家庭児童相談件数	456人 (H30年度)	450人 (R6年度)	こども家庭課	<ul style="list-style-type: none"> <li>予防接種事業</li> <li>小児医療体制の充実事業</li> <li>子どもの医療費助成事業</li> <li>ひとり親・多子家庭支援事業</li> <li>子どもの発達支援事業</li> <li>子ども家庭総合支援拠点事業</li> <li>子育て家庭支援事業</li> <li>子育て総合支援センター事業</li> </ul>
		病児・病後児保育利用者数	245人 (H30年度)	850人 (R6年度)	こども未来課	<ul style="list-style-type: none"> <li>病児病後児保育事業</li> <li>ファミリーサポート事業</li> <li>保育所・認定こども園整備事業</li> <li>延長保育事業</li> <li>一時預かり事業</li> <li>障害児保育事業</li> <li>実費徴収に伴う補足給付を行う事業(保育)</li> <li>放課後児童クラブ整備事業</li> <li>放課後児童健全育成事業</li> <li>放課後子ども教室事業</li> <li>子どもの貧困対策事業</li> </ul>
		放課後児童クラブを利用した保護者の満足度	97% (H30年度)	98% (R6年度)	こども未来課	<ul style="list-style-type: none"> <li>こども図書館事業</li> <li>公園整備事業</li> <li>定住環境整備事業</li> <li>定住特区補助金事業</li> <li>武雄競輪場整備事業</li> <li>福岡、長崎等通勤通学補助事業</li> </ul>
		こどもの発達相談件数	延182人 (H30年度)	延216人 (R6年度)	こども家庭課	
	具体的施策(2)子どもが主人公の教育環境整備	子どもの学習意欲向上度 (とても楽しみと少し楽しみを足した割合)	88% (R元年度)	90% (R6年度)	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT教育推進事業</li> <li>ALT活用事業</li> <li>不登校対策支援事業</li> <li>学校支援地域本部、コミュニティスクール事業</li> <li>部活動指導員活用事業</li> <li>新たな学校づくり推進事業</li> <li>放課後等補充学習事業</li> <li>小中学校の体験活動の充実事業</li> <li>高校生のまちづくり事業</li> <li>わんぱくスクール、ジュニアリーダー育成事業</li> </ul>
		子どもの地域行事参加割合	71% (R元年度)	75% (R6年度)	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> <li>武雄市、雄武町児童交流団派遣事業</li> <li>青少年育成市民会議「たけおっ子“絆”プロジェクト」事業</li> </ul>

実績値						
R2年度	R3年度	R4年度	事業概要及び効果	追加事業	KPI達成に向けての課題	特記事項
13.7% (R2年度)	13.6%	13.50%				各年度12.31現在
14.5% (R2年度)	11.7% (R3年度)	13.4% (令和4年度)	産後うつの早期発見・支援のために、出生届時に産後うつアンケートを渡し、産後2週間後の返信により産婦の状態を把握。	なし		産後うつ(エジンバラ)アンケートの返信時期が遅い場合があり、産後2週間頃に回答し早めに返信してもらうよう周知する。 ・9点以上の産婦については、早めの状況把握に努める。
463人 (R2年度)	675人 (R3年度)	540人 (令和4年度)	<p>&lt;事業概要&gt; 虐待や不登校、育児放棄等の問題がある中、家庭における児童養育その他家庭児童福祉の向上を図るため、関係機関と連携しながら、相談及び指導に当たる。</p> <p>&lt;効果&gt; 県児童相談所や教育現場、警察等と連携を図りながら支援に当たることができた。</p>	なし		令和3年度から支援体制を強化し「武雄市子ども家庭総合支援拠点」を設置。関係機関への周知を図り、情報共有することで、対象ケースのより良い支援につなげる。
267人 (R2年度)	473人 (R3年度)	507人 (R4年度)	<p>&lt;利用者内訳&gt; ・武雄市病児・病後児保育施設利用者(市外子ども含む) 482人 ・江北町施設利用者(市内子どものみ) 25人</p> <p>&lt;事業概要・効果&gt; ・病気等で集団保育が困難な児童を、就労などにより家庭で保育できない保護者に代わって、病児・病後児保育施設において一時的に保育。保護者の子育て・就労の両立の支援を図った。</p>	なし		目標値は、病気になった子の受入者数であり、病気になる子が増えるのが目標ではないため、達成を求める事業ではない。
96% (R2年度)	97% (R3年度)	95% (R4年度)	保護者が就労等で昼間家庭にいない児童に居場所を与えた。放課後及び長期休業中における、こどもの発達段階に応じたこどもの主体的な遊びや生活を尊重し、育成支援を図った。	なし		長期休暇及び土曜日の開所時間を早める(保護者アンケートより)
延216人 (R2年度)	187人 (R3年度)	延261人 (令和4年度)	健診や相談から、ことばの遅れや発達障害の疑いのある児に対し、専門の臨床心理士により相談・検査・指導を実施	発達障害またはその可能性がある児童の就学に向けた専門の臨床心理士(公認心理士)による相談事業		
88.3% (R2年度)	90.90%	83.45%	・武雄市教育研究会では、研究授業を小中ともに行い、新学習指導要領に沿った授業改善を行った。 ・ALT活用事業では、多文化に触れる機会が増えた。	・学習用端末(1人1台)と電子黒板の更新【R2】 ・オンライン授業授業の環境整備(ポケットwifiの整備)【R2】		指標と合致した調査項目がない。(調査項目が変化しているため)今回は、「学校に行くのが楽しみですか」の項目の数値を載せている。
59.6% (R2年度)	61.5% (R3年度)	83.50%	新型コロナウイルス感染症により中止や縮小された行事もあったが、再開された者もあり、子どもたちへの地域行事への積極的な参加を促す呼びかけは継続しており、参加者も増加している。	なし		なし

武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定値						
政策	施策	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値	データ所管課	具体的事業
基本目標 ③ 生きが いと健康 を実感で きるまちを つくる	総論	健康寿命	男性79.47歳 女性85.40歳 (H28年度) R元年度算定分	男性80.47歳 女性86.40歳 (R2年度) R6年度算定分	健康課	
	具体的施策(1)生きが いづくり推進	成人対象講座参加者数	2,258人 (H30年度)	2,700人 (R6年度)	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者大学助成事業</li> <li>シルバー人材センター支援事業</li> <li>里山再生支援事業</li> <li>武雄版里山資本再発見・創発事業</li> <li>公民館講座事業</li> <li>公民館サークル活動支援事業</li> </ul>
		高齢者大学参加者数	134人 (H30年度)	200人 (R6年度)	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> <li>老人クラブ活動等事業</li> <li>人権啓発活動推進事業</li> <li>生活困窮者自立支援事業(自立相談、家計改善、就労準備支援)</li> <li>男女共同参画推進委託事業</li> </ul>
		生活困窮者自立支援新規対応件数	105人 (H30年度)	150人 (R6年度)	福祉課	
	具体的施策(2) 健康づくりの推進	国保の特定健診率	51.4% (H30年度)	60% (R6年度)	健康課	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康ポイント事業</li> <li>国保の特定健診保健指導事業</li> </ul>
		週3回以上朝食を抜く人の数	10.9% (H30年度)	5% (R6年度)	健康課	<ul style="list-style-type: none"> <li>がん検診事業</li> <li>さわやかスポーツクラブ事業</li> <li>食生活改善推進協議会活動事業</li> <li>食を通じた健康づくり事業</li> </ul>
		メタボリックシンドロームの該当者及び予備軍の割合	30.1% (H30年度)	25% (R6年度)	健康課	
	具体的施策(3) 介護・高齢者福祉の 推進	認知症サポーター登録者数	5,918人 (H30年度)	10,000人 (R6年度)	健康課	
		ふれあいいきいきサロン開設数	124箇所 (H30年度)	182箇所 (R6年度)	健康課	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症対策事業</li> <li>生活支援体制整備事業</li> <li>在宅医療介護連携推進事業</li> <li>介護予防事業</li> <li>介護保険事業</li> <li>在宅福祉事業</li> </ul>
		介護予防市民活動グループ数	7箇所 (H30年度)	42箇所 (R6年度)	健康課	
		地域包括ケアシステム構築のための生活支援サポーター登録者数	0人 (H30年度)	200人 (R6年度)	健康課	
	具体的施策(4)障が い福祉の推進	障がい者(児)が自立した生活をするためのサービス利用者数	717人 (H30年度)	860人 (R6年度)	福祉課	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい福祉サービス事業</li> <li>自立支援医療費助成事業</li> <li>福祉タクシー助成事業</li> <li>特別障がい者手当等給付事業</li> </ul>
		就労している障がいの者の数	659人 (H30年度)	670人 (R6年度)	福祉課	<ul style="list-style-type: none"> <li>重度心身障がい児福祉年金支給</li> <li>重度心身障がい者医療費助成事業</li> <li>地域生活支援事業</li> </ul>

実績値							
R2年度	R3年度	R4年度	事業概要及び効果	追加事業	KPI達成に向けての課題	特記事項	
男性79.75歳 女性85.98歳 (H29年度)	男性79.96歳 女性85.43歳 (H30年度)	男性80.64歳 女性86.28歳 (令和元年度)	全国(人口、死亡数、生存数、定常人口)、武雄市(人口、介護認定)等から算出	なし	健康寿命延伸の指標とする	・国、県のデータが揃ってから算定される	
1,737人 (R2年度)	1,620人	4,965人 (R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>出前講座、各町公民館において、歴史講座やスマホ講座、認知症予防講座等を実施。ニーズに合わせた講座を実施した。</li> <li>学習機会を提供し、市民の教養の向上、健康の増進、生活文化の振興、社会福祉の増進につながった。</li> </ul>	—	・地域住民の要望に応じた講座内容の充実が必要。 ・コロナ過のためか参加者が少なくなってきている。今後受け入れ方の対策が必要になってくる可能性がある。	2,368人(R元年度)	
142人 (R2年度)	158人	252人 (R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者大学(武雄市民大学、黒髪大学、延寿学級)</li> <li>高齢者の生涯学習の場を提供することで、生きがいづくり、健康づくりにつながった。</li> </ul>	—	・今後、高齢者の人口増加に備え、さらなる受け皿の確保が必要。	155人(R元年度)	
150人 (R2年度)	116人 (R3年度)	108人 (R4年度)	生活困窮者について、生活保護になることなく自立した生活を行うことに役立っている			141人(R元年度) 武雄市社会福祉協議会生活自立支援センターへの委託事業	
43.7% (R2年度)	48.8% (R3年度)	44.5% (R4速報値)	武雄市国保40歳～74歳に対し、健診を実施	なし	水害やコロナでの受診控えがあり受診率が上がらない。	R4は速報値 (コロナ前のR1年度は52.5%)	
8.9% (R1年度)	8.4% (R2年度)	9.4% (R3年度)	保健指導の実施	なし		特定検診の問診票の質問項目による調査 R4は未算定	
35.3% (R2年度)	33.2% (R3年度)	30.7% (R4速報値)	保健指導対象者に対し、結果説明会や訪問による保健指導を実施。	なし	コロナや水害等により訪問指導が行いにくい期間がある。	R4は速報値 (コロナ前のR1年度は31.9%)	
6,686人 (R2年度)	7,274人 (R3年度)	7,927人 (R4年度)	認知症についての正しい知識と理解を持ち、手助けする認知症サポーターの養成講座を実施			多くの方へ周知を図るため、広報等の方法を検討していく。	6,521人(R元年度末)
134箇所 (R2年度)	134箇所 (R3年度)	133箇所 (R4年度)	住み慣れた地域での交流を通して、孤独感の解消、健康維持、生活意欲の向上を図り、福祉コミュニティの形成を推進する。サロンで認知症についての相談に認知症地域支援推進員として対応されたり、サロンが地域の課題を吸い上げる場として機能しているところも増えてきている。			既存のサロンは新規参加者が増えにくく、数年経つと高齢化が進み運営が難しくなり廃止となる。	136箇所(R元年度)
20箇所 (R2年度)	23箇所 (R3年度)	24箇所 (R4年度)	自主グループに対して理学療法士等の専門職が、定期的な体力測定や講話を行うことで、モチベーションを維持し、活動が継続できるよう支援する。			コロナウィルス感染症流行の中で、いかに対策をしながら活動を行っていくか検討が必要である。	17箇所(R元年度) 積み上げの数 100歳体操のG
73人 (R2年度)	95人 (R3年度)	148人 (R4年度)	地域住民同士の助け合いや支え合いの体制整備のため、研修の受講者に生活支援サポーターとして登録してもらう。高齢者の社会参加及び生活支援や介護予防の充実が図られる。			生活支援サポーター登録のためのサポーター養成講座を、各町拠点等で行うことにより、地域の意識の醸成につなげたい。	0人(R元年度)
768人 (R2年度)	811人 (R3年度)	824人 (R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいの程度や生活状況に合わせた福祉サービスの提供に取り組んだ。</li> <li>事業等の周知を含め、必要な障害福祉サービスに関わる支援を行った結果、利用者が増えた。</li> </ul>				769人(R元年度)
666人 (R2年度)	661人 (R3年度)	667人 (R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者の雇用状況の把握、事業所への意向調査、就職面接会の実施、障がい者雇用に関する啓発に取り組んだ。</li> </ul>			就職説明面接会を毎年開催しているが参加企業の確保に苦慮している。	671人(R元年度)

武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定値						
政策	施策	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値	データ所管課	具体的事業
基本目標 ④ 人と人の交流が生まれ、心がつながるまちをつくる	総論	交流人口	194万人 (H30年度)	220万人 (R6年度)	商工観光課	
	具体的施策(1) 国内・海外誘客	観光消費額	120億 (H30年度)	135億円 (R6年度)	商工観光課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新幹線活用プロジェクト事業</li> <li>・高架下等活用事業</li> <li>・武雄温泉駅前広場整備事業</li> <li>・ナイトタイムエコノミー事業</li> <li>・広域観光連携事業</li> <li>・地域資源を活用した観光客誘致事業</li> <li>・地域資源を活用したまちあるき事業</li> <li>・体験型ツーリズム事業</li> <li>・観光振興・PR事業</li> <li>・各地域のイベント支援事業</li> <li>・観光コンシェルジュ事業</li> <li>・武雄温泉楼門朝市事業</li> <li>・武雄温泉保養村資源活用事業</li> <li>・九州オルレコース整備事業</li> <li>・海外観光客受入整備事業</li> <li>・海外観光エージェント招聘事業</li> <li>・外国人観光受入環境整備事業 (Wi-fi整備、サイン多言語化、免税店設置など)</li> </ul>
		外国人観光客数	28,787人 (H30年度)	40,000人 (R6年度)	商工観光課	
	具体的施策(2) 効果的な情報の発信	定住世帯数	19世帯 (H30年度)	35世帯 (R6年度)	ハブ都市・新幹線課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定住特区補助金、定住支援金事業</li> <li>・空き家、空き地バンク新規物件登録事業</li> <li>・定住環境整備事業</li> <li>・東京圏移住支援事業</li> </ul>
		WEB閲覧件数	1,553,537件 (H30年度)	2,000,000件 (R6年度)	広報課	・武雄ブランド事業
		スポーツ大会、合宿等の宿泊者数	2,147人 (H30年度)	3,000人 (R6年度)	スポーツ課	
	具体的施策(3) 文化・スポーツの振興	スポーツイベント等への参加人数	4,909人 (H30年度)	6,000人 (R6年度)	スポーツ課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民のスポーツ参画事業</li> <li>・スポーツ施設整備事業</li> <li>・競輪場を活用したスポーツ活性化事業</li> <li>・スポーツ大会、合宿等誘致事業</li> <li>・プロチームの進出、誘致促進事業</li> </ul>
		歴史資料館企画展への来場者数	30,000人 (H28～H30年度平均)	33,000人 (R6年度)	文化課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財保存活用事業</li> <li>・歴史資料館企画展事業</li> <li>・伝統芸能継承事業</li> <li>・図書館事業</li> <li>・自主文化事業</li> <li>・公園活用促進事業</li> </ul>

実績値						
R2年度	R3年度	R4年度	事業概要及び効果	追加事業	KPI達成に向けての課題	特記事項
176万人 (R元年)	121万人 (R2年)	110万人 (R3年)				
109億 (R元年度)	92億 (R2年)	99億 (R3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2タケさんぼ朝日コース開設 (地域資源活用)</li> <li>・九州インバウンドオンライン商談会参加</li> <li>・春まつり、秋祭り支援</li> <li>・たけナビ (広域観光案内)</li> <li>・九州オルレ武雄コース維持管理、親子でオルレ、クリスマスオルレ開催 (オルレ活用)</li> <li>・観光客誘致対策助成 (CV、修学旅行等のあっせん)</li> <li>・宿泊旅行商品造成助成 (誘客あっせん)</li> <li>・観光客チャレンジ補助 (日帰り旅行あっせん)</li> <li>・官民連携まちなか再生 (回遊性を高める公共空間活用に向けた民間支援)</li> <li>・三市町連携事業 (有田町、嬉野市)</li> <li>・外国人受入れ環境整備 (サイン多言語化、トイレ洋式化等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保養村キャンプ場等利活用事業 (オンドパーク)</li> <li>・宿泊施設等整備奨励事業認定 (R3=1施設、R4=4施設)</li> <li>・宿泊施設魅力向上支援事業 (R3=5施設、R4=3施設)</li> <li>・駅観光交流センター整備及び運営</li> <li>・観光周遊バス「たけめぐり」運行</li> </ul>	インバウンドを含めた受入環境づくり (人、食、宿、トイレ、案内等)	
27,900人 (R元年度)	3,300人 (R2年)	150人 (R3年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住定住の促進を行い、地域の活性化を図る。</li> </ul>		多拠点居住交流促進事業支援金【R2】【R3にて終了】 同居・近居移住支援給付金事業【R3】【R4にて終了】	予算とKPIが比例する
2,176,906件 (R2年度)	2,501,736件 (R3年度)	2,056,371件 (R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・閲覧者目線にたった情報の作成を行うとともに、分かり易い導線を意識した情報配置を行った。また、市民の関心が高い新型コロナウイルス関連特設ページ、及びワクチン接種特設ページを設置し、タイムリーな情報提供を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス関連ページの設置【R2】</li> <li>・シティプロモーションサイトの再構築【R2】</li> <li>・新幹線特設ページの再構築【R2】</li> </ul>		既に目標値を達成しているが、閲覧数増の要因として、新型コロナウイルス関連情報へのアクセス増が影響していると推察される。コロナ終息後、閲覧数が減少しないよう、コンテンツの更なる充実を図る必要がある。
293人 (R2年度)	448人	1,572人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光誘致助成事業による大会 10件</li> <li>・市 (スポーツコミッション) 誘致事業 10件</li> </ul>		新体育館オープン、国スポ・全障スポ開催を活かした効果的な営業・情報発信。	2,314人 (R元年度)
1,127人 (R2年度)	1,679人	6,425人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育協会主催のイベント</li> <li>・市主催イベント</li> <li>・スポーツコミッションイベント</li> <li>・スポーツ大会後援事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者ニューススポーツ交流会</li> <li>・武雄市民球場オープニングイベント</li> <li>・ひぜんスタジアム1日開放DAY</li> <li>・サガンキッズプロジェクト</li> <li>・県民スポーツ大会</li> <li>・武雄市さわやかスポレ</li> </ul>		4,294人 (R元年度)
17,266人 (R2年度)	26,880人 (R3年度)	29,481人 (R4年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○企画展内容</li> <li>武雄十兵衛家資料寄贈記念「銀杏を掲げる」</li> <li>4/23～5/22 来館者5,545人</li> <li>西九州新幹線開業ブレ展「路をたどって～交通の要衝 武雄～」</li> <li>7/30～8/28 来館者4,492人</li> <li>西九州新幹線開業記念特別企画展「新風颯走 かもめ翔ぶ」</li> <li>9/23～11/6 来館者12,136人</li> <li>武雄の炭鉱閉山50年「燃える石を掘れ！！」</li> <li>2/25～3/26 来館者7,308人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小学校6年生6校「新風颯走 かもめ翔ぶ」観覧</li> <li>・「JR九州ウォーキング 2022春編」「JR九州ウォーキング 2022秋編」連携事業【R4】</li> </ul>	蘭学・企画展示室は重要文化財展示エリアであることから展示環境保持のため、開催に当たっては常駐者の配置が必須である。このため、開催時間・期間の延長には経費がかさむ。	27,397人 (R元年度) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の影響があり、令和3年度に引き続き、来場者数が伸び悩んだ。

武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定値						
政策	施策	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値	データ所管課	具体的事業
基本目標 ⑤ 災害に強く、安心して心豊かに暮らす環境をつくる	総論	人口の社会増減数	△96人 (H26～H30平均)	△48人 (R6年度)	市民課	
	具体的施策(1) 災害に強いまちづくり	自主防災訓練実施団体数	10団体 (H30年度)	50団体 (R6年度)	防災・減災課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災情報発信システム構築事業</li> <li>・防災アプリ構築事業</li> <li>・自主防災組織支援事業</li> <li>・ハザードマップ整備事業</li> <li>・浸水予測システム構築事業</li> <li>・国土強靱化推進事業</li> <li>・がんばる地域応援事業</li> <li>・伝統芸能継承事業</li> <li>・CSO活動助成事業</li> <li>・対話の機会創出事業</li> <li>・国際交流事業</li> <li>・多文化共生のまちづくり事業</li> <li>・地域コミュニティ活性化事業</li> <li>・生涯学習まちづくり出前講座</li> <li>・市民協働活動促進事業</li> <li>・青少年育成市民会議「たけおっ子“絆”プロジェクト！」事業</li> </ul>
		避難行動要支援者個別計画策定率	59% (H30年度)	100% (R6年度)	福祉課	
	具体的施策(2) 暮らしやすい住環境の整備	汚水処理人口普及率	66.7% (H30年度)	76.0% (R6年度)	下水道課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の手続き利便向上事業</li> <li>・防災システム構築事業</li> <li>・汚水施設整備事業</li> <li>・下水道整備事業(汚水対策、雨水対策)</li> <li>・環境施策の推進事業</li> <li>・総合環境対策事業</li> <li>・廃棄物処理、減量等事業</li> <li>・都市計画道路整備事業</li> <li>・主要市道整備事業</li> <li>・一般市道整備事業</li> <li>・治水対策事業</li> <li>・空き家、空き地対策事業</li> <li>・中古住宅の流通促進事業</li> <li>・周辺部住宅整備事業</li> <li>・里山資本再発見、創発事業</li> <li>・里山再生支援事業</li> <li>・公園活用促進事業</li> </ul>
市道の改良率		76.8% (H29年度)	80.0% (R6年度)	建設課		
空き家・空き地バンク登録数		16件 (H30年度)	20件 (R6年度)	ハブ都市・新幹線課		
具体的施策(3) 地域の移動手段の確保	循環バス・みんなのバス等の利用者数	26,247人 (H30年度)	27,000人 (R6年度)	企画政策課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・循環バス運行事業</li> <li>・生活交通路線維持事業</li> <li>・コミュニティバス等運行事業</li> <li>・廃止路線代替バス運行事業</li> <li>・地方バス路線運行事業</li> <li>・自家用有償運送等事業</li> </ul>	

実績値						
R2年度	R3年度	R4年度	事業概要及び効果	追加事業	KPI達成に向けての課題	特記事項
△22人 (R2年度)	△155人 (R3年度)	△80人 (R4年度)				
30団体 (R2年度)	3団体 (R3年度)	8団体 (R4年度)	<p>訓練内訳 プッシュ型出前講座 8区</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戸別受信機の推進</li> <li>・防災アプリたけぼうの推進</li> <li>・講話 自主防災組織、婦人会等</li> </ul> <p>効果 戸別受信機、防災アプリたけぼうの普及を図り、災害に対する事前準備及び地域防災力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内水デジタルハザードマップの整備</li> <li>・臨時災害FM告知放送装置の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のため、予定していたプッシュ型出前講座が実施できなかった。</li> <li>・未実施の自主防災組織については、出前講座を実施することにより引き続き防災意識の向上を図る。</li> </ul>	5団体(R元年度) 30団体(R2年度)
59.7% (R2年度)	59.2% (R3年度)	62.3% (R4年度)	<p>(事業概要) 避難支援体制の整備を行い、災害時の要支援者の避難誘導、安否確認等に活用。</p> <p>(効果) 名簿登録者のうち、同意を得ている者については、民生委員・消防等関係者にあらかじめ情報を提供し、平時より協力体制の整備を行っている。 同意を得ていない者についても、台帳を整備し、有事の際は活用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難行動要支援者訪問調査【R2～R4】</li> </ul>	R3.5災害対策基本法改正により、実効性のある計画にするため福祉専門職及び支援関係者参加による作成が必要となった。	訪問調査で真に避難支援が必要な方の精査を行っている。
69.53% (R2.3月)	70.46% (R3.3月)	71.10% (R4.3月)	<p>○下水道整備事業(汚水対策) 【公共下水道事業】 武雄町の一部を公共下水道処理区域とし、終末処理場の設置および管渠布設を行うことで汚水処理を促進し、生活環境の向上や水質保全を図る。</p> <p>○汚水施設整備事業 【市営浄化槽事業】 公共下水道処理区域以外の市内全域を対象に、市が管理する浄化槽を設置することで汚水処理を促進し、生活環境の向上や水質保全を図る。</p>	なし	目標値は69.9%であり、目標値を上回ってはいるが、昨年度より伸び率は落ちている。今後も引き続き確実に整備推進を図れるよう取り組んでいく。	3/31を基準日として、毎年5月中旬頃に集計している。
77.0% (R元年度)	77.2% (R2年度)	77.4% (R3年度)	<p>地域間を結ぶ幹線道路の整備及び局部改良を実施する。この整備により、道路幅員・交差点改良、歩道設置、視距改良等により地域の利便性・安全性の確保と道路環境の改善を踏っていく</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の利便性の向上と安全性の確保を図る。</li> <li>・交通事故の抑制</li> <li>・道路機能の安定した維持管理。</li> </ul>		予算の確保	
13件 (R2年度)	12件 (R3年度)	16件 (R4年度)	<p>空き家・空き地バンクの登録を推進し、定住促進による地域活性化を図る。</p>			
22,915人 (R2年度)	24,987人 (R3年度)	23,675人 (R4年度)	<p>ほんわカー 7町 13路線 (R3.4月まで 4町 12路線)</p> <p>循環バス 1路線 (R3.4月まで 2路線)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東川登町で実証運行</li> </ul>	<p>利用者増へ向け、広報周知の強化等を図る必要がある。</p>	R3.4 コミュニティバス名変更 みんなのバス→ ほんわカー